

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校訓『誠実・忍耐・努力』の実践</li> <li>・主体的に「学び続ける生徒」を育てる特色ある教育活動の実践</li> <li>・社会の変化に柔軟に対応しながら、国際的視野の獲得と同時に地域にも根ざした魅力ある学校づくりの推進</li> <li>・生徒一人ひとりを大切に、生徒の将来像を見据えたキャリア指導の徹底と高大接続への具体的な指導環境の整備</li> <li>・生活習慣および規範意識を身につけ、他者と協働していくことのできる生徒の育成</li> </ul>	
領域	重点評価項目	学年末評価
1 学校経営	a 『地域に根ざした魅力ある学校』を目標とし、特色ある学校づくりを進めている。	A
	b 本校の生徒は充実した学校生活を送っている。	A
	c 本校に生徒を入学させた保護者の満足度は高い。	A
	d 滋賀学園の教職員としての使命・職務を自覚し、教育活動を推進している。	A
2 学習指導	a 授業時間を確保し、シラバスに基づいた計画的な学習指導を行っている。	A
	b 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	A
	c 成績が低迷した場合に適切なフォローや補習授業等の取り組みが行われている。	A
	d オンライン等の研修を通じて、確かな教科指導力向上を図り、生徒の授業満足度を大きく高めるよう努めている。	A
3 生活指導	a 遅刻や服装など、基本的な生活習慣の確立を目指す指導を適切に行っている。	A
	b 生徒と保護者は教員とのコミュニケーションが十分とれ、その指導に納得している。	A
	c 生徒との良きコミュニケーションに努め、挨拶等の礼儀指導を適切に行っている。	A
	d いじめや不正の実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見を心がけている。	A
	e カウンセラーや専門機関との連携を緊密にし、生徒・保護者への相談活動を活性化しよう心がけている。	A
	f 生徒のトラブルや学校生活での問題に対して、迅速かつ適切な対応をしている。	A
4 進路指導	a 各学年と連携し、「一つ上をめざす」進学意識を育てている。	A
	b 進路学習と連携し、大学受験等をめざした講習等を計画的に実施している。	A
	c 進路LHR等を利用し、個に応じた丁寧な進路指導を行っている。	A
	d 学年と連携を図り、年次進行における進路ニーズを把握して、望ましい勤労観・職業観を育成している。	A
	e 進路説明会や入試情報など進路情報の提供に努めている。	A
	f 模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制をとっている。	A
	g 模擬試験後のデータ活用や面談等によって、生徒の学力分析を行い、その後の生徒の学習指導に役立てている。	A
	h 生徒が意欲的に自分の将来を考え、決定できるように全教員が様々な場面で支援している。	A
5 特別活動等	a 生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図り、生徒の学校生活をより良いものにしていく。	A
	b 生徒の発達段階や学年に応じたLHR活動を計画的に行い、内容の充実を図っている。	A
6 学校図書室	a 教科指導や特別活動において図書室を積極活用し、利用の拡大を図っている。	B
	b 読書活動を推進し、生徒の貸し出し数の増大を図る取り組みを行っている。	B
7 保健指導	a 健康への関心を高め、新型コロナウイルスや食事、薬物、性に対する正しい知識を身につけるよう指導している。	A
	b 教育相談教員やカウンセラーを中心に、相談を受けやすい体制作りに取り組んでいる。	A
8 人権教育	a あらゆる機会を通じて、命の尊厳と大切さを認識させる教育を実践している。	A
	b 人権意識を高める指導を日常的に行うよう努めている。	A
	c 人権に関する教育を充実・発展させるための学習、講演会等の充実に努めている。	A
9 環境教育	a 校内美化に積極的に取り組んでいる。	A
	b ゴミの減量化に努め、光熱費の節減に努めている。	A
10 事務・管理	a 学校や施設・設備の安全管理に努めている。	A
	b 施設・設備の省エネに努めている。	A
11 ICT機器活用	a 教科活動や特別活動において、ICT機器を積極的に活用し、利用の拡大を図っている。	A
	b ICT機器をあらゆる機会において、生徒・保護者・教員のコミュニケーションツールとして活用している。	A
12 その他 学校の取組み	a 高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携を積極的に行っている。	A
	b 学校は個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めている。	A
	c 課外活動において高い競技力や技術力等を身につけさせることを通して、心身の成長を図り、人間性を高める指導に努めている。	A
	d 学校ウェブページ等で学校情報を地域や保護者に積極的に発信している。	A

・評価の基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。

## 令和4年度学校評価 分析・総括

<全体>今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念されたが、学校全体では感染症の影響が若干あったものの、体育祭や文化祭等の学校行事全般においては活動を感染拡大に注意しながら実施することができた。学習面においても学校全体で ICT 機器を使用する機会が昨年度よりも増え、多くの授業において有効的に活用された。また、生徒・保護者・教員のコミュニケーションツールとしての活用も定着してきた。各項目において概ね肯定的な評価となっていることから、次年度においても教員間の相互理解を図り、教育活動のさらなる充実を目標に取り組む必要がある。

<学習指導>学習指導に対しては全ての項目に対して一定の評価をえられている。また、ICT 機器を利用した授業展開も成果をあげてきている。成績不振者数が減少傾向（昨年比 60%）となったのはこの成果としてとらえたい。しかし、学習に対して集中することができない生徒も依然として見受けられることから、学習支援は今まで以上に継続して解決しなければならない課題となっている。今後はこのことをふまえて、授業内容の積極的な改善に取り組み、日頃から学習に意欲的に取り組ませるにはどうしたらよいかを学校全体の課題として検討しなければならない。

<生活指導>生活指導項目の評価においては、今年度も肯定的評価が得られているが、問題行動の解決策として保護者を含めた継続的な指導を行う必要を感じる。社会でも問題となっている SNS 等のトラブルについては、本校でも問題となっており、日頃の HR 活動を中心に集会や講演等を通じて、継続的にきめ細かい指導を続けていかなければならない。今のところ、大きな問題には至っていないが、この問題については、日常から生徒とのコミュニケーションをとる中で、教員が保護者と密に連携しながら、生徒がトラブルに巻き込まれないよう次年度も継続して指導を続けていく必要がある。

<進路指導>生徒の家庭学習時間の減少や学習意欲の低下が社会的にも問題になっているが、本校では生徒の学習習慣を改善するため、情報機器を利用した学習を強化し、考査前学習室の設置等、様々な取り組みを実施している。進路指導においては、生徒・保護者との連携を密にして生徒の希望、適性に合わせた進路指導を行うことができた。その結果、進学指導においては国公立大学、難関私立大学に複数の合格者をだすことができた。また就職指導においても生徒の希望に概ね沿った内定結果となった。今後も系列大学との高大連携教育を推し進めるとともに、生徒の多様なニーズに応えるため、全教員が一丸となって生徒の進路指導に当たる必要があると考えられる。

<特別活動>生徒会活動が活性化され、生徒会の役員が中心になり学校行事全般において活躍する場面が多くみられた。その一つとして学校のオープンキャンパスにおける受付や案内、キャンパスツアーの案内役としても活動が活発であり、参加者からの評価も高い。今後も現在の活動を継続する必要がある。

<学校図書室>学校図書室評価においては、昨年同様若干評価が低かった。原因としては、図書室利用の推進や読書指導に対する取り組みへの成果が満足のゆくものに至らなかったことによるものと思われる。次年度に向けて図書室の積極的な利用と質の高い図書に触れる機会を増やしてゆく必要があると考えられる。

<環境教育・事務・管理等>校舎等の安全点検は計画に則って実施できている。次年度についても今年度同様、いかなる自然災害に対しても、生徒が安全安心に学校生活を送れるような体制を見直し、学校管理体制の充実に努める必要がある。また、校地内各所には季節ごとの飾りつけや花壇の設置をするなど美化活動にも積極的な取り組みを行っている、